

2020 年度

全国地域青年

「実践大賞」

報 告 書



～創る・結ぶ・学ぶ～

日本青年団協議会

2020年度 全国地域青年「実践大賞」報告書

◇もくじ◇

2020年度全国地域青年実践大賞応募実践・結果一覧表

1

◆地域活動の部

実践大賞

安城市青年団協議会(愛知県)／
オンラインによる青年団活動 活動事例 3

準実践大賞

池田町青年団(福井県)／
スカイランタンinいけだ 7

地域活動の部 受賞作品実践概要・審査員講評 10

◆教宣活動の部

教宣大賞

鯖江市連合青年団(福井県)／鯖江市連合青年団PRチラシとマスクケース 17

準教宣大賞

安城市青年団協議会(愛知県)／
安城市青年団協議会×リネーブル
合同企画 名刺作成 21

教宣活動の部 受賞作品実践概要・審査員講評 27

◆特別賞

田澤義鋪賞

もりやま青年団(滋賀県)／みんなで一緒に もりやまの輪 34

全国青年団OB会奨励賞

土佐市青年団(高知県)／土佐市ドラゴン夜市 39

特別賞 受賞作品実践概要・審査員講評

46

2020年度全国地域青年「実践大賞」応募実践受賞結果一覧表

審査会	2021年2月16日（火） 13時
審査員	萩原 建次郎 氏（駒澤大学教授） 三友 千春 氏（元日本青年団協議会副会長） 赤坂 渡 氏（中日新聞東京本社広告局次長） 桐山 理恵 氏（デザイナー） 澁谷 隆 氏（一般財団法人日本青年館公益事業部部長） 棚田 一論 氏（日本青年団協議会事務局長）
進行可	部 紗子（日本青年団協議会組織社会部局員）

◆受賞結果

(1) 地域活動の部

実践大賞	安城市青年団協議会（愛知県） オンラインによる青年団活動 活動事例
準実践大賞	池田町青年団（福井県） スカイランタンinいけだ
実践奨励賞	大郷町青年団（宮城県） 令和3年大郷町成人式企画「成人式の思い出を永遠に」 ～フォトスポット設置&記念品配布～
	羽咋市青年団協議会（石川県） オンラインサンタ宅配便
	大野市灯そう会（福井県） 灯そう会ラジオ企画「いっぺんラジオきいてきねんや」
支援実践賞	岡山県青年団協議会（岡山県） 青年団体活動紹介冊子『エール』

(2) 教育活動の部

教育大賞	鯖江市連合青年団（福井県） 鯖江市連合青年団PRチラシとマスクケース
準教育大賞	安城市青年団協議会（愛知県） 安城市青年団協議会×リネーブル 合同企画 名刺作成
教育奨励賞	日野町連合青年会（滋賀県） 団員募集（チラシ）、広報活動（機関紙「ひのせいねん」）
	岡山県青年団協議会（岡山県） 地域パワーアップ エコバッグ

(3) 特別賞

田澤義鋪賞	もりやま青年団（滋賀県） みんなで一緒に もりやまの輪
全国青年団OB会奨励賞	土佐市青年団（高知県） 土佐市ドラゴン夜市

◆応募実績

<地域活動の部>

No.	道府県名		市町村名	団体名	活動の名称
1	4-1	宮城県	大郷町	大郷町青年団	令和3年大郷町成人式企画「成人式の思い出を永遠に」～フォトスポット設置&記念品配布～
2	18-1	石川県	羽咋市	羽咋市青年団協議会	オンラインサンタ宅配便
3	19-1	福井県	鯖江市	鯖江市連合青年団	コロナ禍で取り組んだサンタ宅配便2020
4	19-2	福井県	大野市	大野市灯ろう会	灯ろう会ラジオ企画「いっぺんラジオきいてねんや」
5	19-3	福井県	池田町	池田町青年団	スカイランタンinいけど
6	19-4	福井県	大野市	大虫地区青年学級「近所の子ら。」	宅配サンタwithコロナ
7	23-1	愛知県	安城市	安城市青年団協議会	オンラインによる青年団活動 活動事例
8	25-1	滋賀県	守山市	もりやま青年団	みんなで一緒に もりやまの輪
9	33-1	岡山県	岡山市	岡山県青年団協議会	青年団体活動紹介冊子『エール』
10	39-1	高知県	土佐市	土佐市青年団	土佐市ドラゴン夜市

<教宣活動の部>

No.	道府県名		市町村名	団体名	活動の名称
11	1-1	北海道	栗山町	栗山町青年団体協議会	KSKバーカー&名刺制作
12	4-1	宮城県	大和町	大和町連合青年団	新人勧誘(チラシ)
13	19-1	福井県	鯖江市	鯖江市連合青年団	鯖江市連合青年団PRチラシとマスクケース
14	23-1	愛知県	安城市	安城市青年団協議会	安城市青年団協議会×リネーブル 合同企画 名刺作成
15	25-1	滋賀県	日野町	日野町連合青年会	団員募集(チラシ)
16	25-2	滋賀県	日野町	日野町連合青年会	広報活動(機関紙「ひのせいねん」)
17	33-1	岡山県	岡山市	岡山県青年団協議会	地域パワーアップ エコバッグ

8道県からの応募 地域活動10件 教宣活動7件 (計17件)

教宣活動の部応募状況 グッズ4件、ユニフォーム1件、機関紙2件

<実践大賞 資料>

安城市青年団協議会（愛知県）

オンラインによる青年団活動
活動事例

2020年度全国地域実践「実践大賞」 アピールレポート（共通・設問有り）

応募団体名	(ふりがな) あんじょうしせいねんだんきょうきかい 安城市青年団協議会	応募部門	<input checked="" type="checkbox"/> 地域活動の部 <input type="checkbox"/> 教宣活動の部
活動名称	(ふりがな) おんらいんによるせいねんだんかつどう かつどうじれい オンラインによる青年団活動 活動事例		
活動実施日	2020年 4月 6日 ~ 2020年 9月 26日		
活動場所	オンライン(LINE,zoom,skyp,たくのむ)		
関係者数	40名	参加者数	30名
活動概要	(200字程度) 2020年の年度初めからコロナウィルス感染症が広がり、緊急事態宣言が発出されるなどの影響により、安城市青年団協議会として、これまで続けてきた事業がほとんどやれなくなってしまう事態に陥りました。何とかして活動を継続できないかアイデアを話し合い、オンラインツールを用いた活動の企画を行いました。手始めに青年問題研究集会を行い、この活動でオンラインの有効性やノウハウを得ることができました。次いでラジオ形式の対話やゲームで遊んだり、学習の機会を設けたりと様々な形態で活動を開催することができました。一旦は活動ができないという状態から、工夫で対応するという経験やオンラインを実行したからこそその体験を得ることができました。		

※準備から活動終了までの打ち合わせやリハーサルなど活動を行った年月を時系列で記入してください。

〈アピールポイント〉

- ①活動の詳細を以下に自由に記載してください。文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。
- ②文字の大きさやレイアウトに指定はありません。
- ③「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

■活動のきっかけ、準備期間に關すること等

コロナ禍の中で青年団活動をどのように折り合いをつけていけばよいか
不要不急の用事は控えるように求められる中で、青年団活動（スポーツ、ボランティア、地域活動）は不要不急に含まれるのか、人の接触を避けなければいけないなど、話し合いというよりも言い争いのような形となってしまい、安城市青年団協議会は混乱状態にありました。
自肅すればよいか、頭では理解はするものの、何もできない何もしないでなく、私たちに何ができるか
自問自答を繰り返す中でオンラインならば可能性があるのではないか、
とりあえずやってみようとオンラインミーティングに取り組むことになりました。

■活動中の苦労、印象深かったこと等

コロナ禍で工夫した点、苦労した点

☆苦労した点 オンライン通信時に不具合が発生したとき、相手が近くにいないこともあり、何が起こっているのかわからず、インターネット通信の専門知識がない私にはその場で対応することは難しいことがわかりました。それぞれの通信環境によって画面がフリーズしたり、ラグで動きが遅くなったり、音声が聞き取りにくくなることがあり会話にならない時もありました。また通信に問題がなかったとしても、画面を見ながらの会話になる為話のタイミングが分かりにくいなど、対面で話をするよりも疲れてしまう。

☆工夫した点 オンラインをやる時には事前に接続の確認を行うようにしました。

複数で通話をしているとハウリングや雑音、相槌なども会話のリズムが取りにくくなってしまうなど、通常の会話では問題にならないようなことも壁となってしまうため、話す人以外はマイクオフなどのルールつくりました。

オンラインツールは数種類あり青年団活動として利用する場合どれが使いやすいか、実際に使用してみてそれぞれの特性を体験し有効な物を模索しました。

■活動の成果、今後の展望に関する事等

オンラインツールを使う事により同じ場所にいなくても、コミュニケーションがとれるのは素晴らしい。
遠方にいる人とコミュニケーションをとる時には、オンラインは有効な手段となり、
距離の壁を越えるという体験をすることができました。
オンラインであろうと、はじめましての関係から仲良くなることだってできるし、
対面していないからこそ気軽にコミュニケーションがとれるようになる人もいることがわかりました。
通信は、どこでも出来ることがいいところで、携帯一つで出先から接続することだってできます。

しかし、オンラインも万能ではなく、
青年団活動のオンライン活用においての欠点が地域性に欠けることです。
何をしようとオンライン上での関係性に留まるという特性があります、
オンラインに参加していない人は中の出来事をほぼ知ることはありません。
地域に出向いて地域の人と関わりながら活動を行ってきた、
現場で活動をいっしょに取り組んでくれた、声をかけて応援してくれた、遠くから見守ってくれた、
そういう地域の人との関わりがほとんどないことが決定的な違いです。
コロナ禍の青年団活動において、大きな資金を必要とせず、気軽に利用できるオンラインツールは
大変素晴らしい、私たちの活動の支えとなってくれたことは間違ひありません。
しかしながらオンラインに活動を置き換えることはできないと思います、
活動を支える補助的な手段としてまだまだ可能性はありますので、
今後もやり方等を工夫しながらオンラインの企画を考えていきたいと思います。
オンラインが出会わせてくれた仲間に、オフライン（現地）で会いたい！
私たにはそれができると、信じています。

■自由記述欄（各欄で記載できなかったこと等）

活動家にとって活動できないことが、こんなにつらいことなどと身をもって知る1年となりました。
青年団活動が不要不急であると言われたとき、言いようのない怒りと悲しみと、無力感におそれました。
納得いかないけど受け入れるしかない、今は生き延びて組織を存続させる。
スポーツや文化のない世界というものを体感することができた私たちが、
再びソフトボールや盆踊りを成功させることができたとき、
スポーツや文化をより愛することができるのではないかと思います。

以上

<準実践大賞 資料>

池田町青年団（福井県）

スカイランタン in いけだ

**2020年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）**

応募団体名 池田町青年団	(ふりがな) いけだちょうせいねんだん	応募部門 地域活動の部
活動名称 スカイランタンinいけだ		
活動実施日 2020年 11月 29日	2020年 11月 29日	
活動場所 Tree Picnic Adventure IKEDA		
関係者数 4名	参加者数 20名程度	
活動概要 コロナ禍で、色々大変なことがあった一年ではありました。コロナ復興、青年団員の勧誘、交流を目的に掲げ実施させていただきました。当日雨予報でしたが打ち上げの際には天候も回復し無事に打ち上げることができました。打ち上げる際の準備、打ち上げなどで様々な方に協力いただき綺麗に池田の空に羽ばたかせることができました。中々企画をすることが難しい時期ではありますが、参加者それぞれの想いを打ち上げることができました。はじめての企画ではありますが今後に活かせることができますと考えております。		

活動報告

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

■活動のきっかけ、準備期間に関すること等

コロナ禍の中で何か僕たちでできないことはないかと考えました。また、三密を避けることができ、かつ、参加者を楽しませることができるものは何かと考えた結果屋外でのイベントに行きつきました。その際にスカイランタンのイベントができるかと団員に聞いたところ前向きな検討であったため実施いたしました。準備期間としては会場、備品の準備など踏まえて順調に進んでいったため、2週間の中で企画、準備、実施を行うことができました。第1回目ということもあり、バタバタすることも多々ありましたが2回目、3回目に生かすことができる内容であつたと思います。

■活動中の苦労、印象深かったこと等

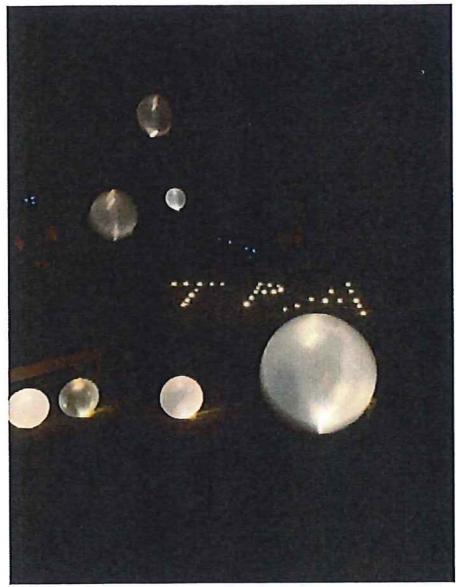
活動中天候不良により実施が危ぶまれる場面があったが、参加者、団員の協力により無事打ち上げることができたこと。イベントとしてある程度の暗闇の中行うため、足元が見えづらいことや飛んで行かないような準備を行うことが難しいと感じた。ランタンを何もつけずに飛ばしてしまうと、ゴミ問題もあるため地面に打ち込んだ杭と固定をしていった。固定をする際に紐で括っていたが紐の重さによりランタンが飛ばないということもあったため紐の重さに大変気を遣った。また、風によって絡まる可能性もあったので距離感に気をつけた。

■活動の成果、今後の展望に関するここと等

他のイベントと合わせて実施をすることを考えております。まだ詳しい方向性等は詰めることはできていませんが毎年の恒例行事としてできればと考えております。

以上

■活動の様子



2020年度全国地域青年「実践大賞」報告書

地域活動の部 実践概要・講評

実践大賞 地域活動の部に応募された

実践概要・審査員講評

※概要是応募されたアピールレポートから抜粋

＜実践大賞＞

安城市青年団協議会（愛知県）

オンラインによる青年団活動 活動事例

■実践概要

コロナ禍によってこれまでの活動がほとんどできなくなってしまった。不要不急の用事を控えることが強く求められた今年度、青年団活動は不要不急に値するのか議論がされ、話し合いではなく言い争いに近い状況に陥った時もあった。こうした中ではあるが、何かできないかと知恵を絞り、オンラインツールを活用した活動に切り替えた。まずは、今の生活課題を持ち寄って話そうと青年問題研究集会を開催しつつ、オンラインによる有効性やノウハウの獲得をめざした。さらに、ラジオ形式の対話やゲームや学習会を行い、オンライン企画の幅を増やしていった。

しかし、通信時の不具合が起きた時の対応が難しいため、事前に接続テストを実施し、原因とつきとめ、事前のトラブル回避に努めた。また、様々なオンラインツールを試してみることで、青年団活動に適切なツールも試行錯誤する。

機転を利かせ、新たな方法を模索したからこそ身につけることができたスキルと、できなかつたからこそ生まれた日頃の活動への愛に気づかされた取り組みだ。

■審査員講評

実践大賞の受賞おめでとうございます。

コロナ禍での青年団にとって、新たな活動の選択肢と可能性を大きく広げてくれる実践です。オンラインができる限りリアルに近づけていく小さな工夫を重ねながら、「オンラインしかできない」ではなく「オンラインでもできる」「オンラインだからこそできる」…その可能性を楽しんで切り開いていく姿勢と発想は、ぜひ全国の青年たちと共有したい内容です。

青年問題研究集会のオンライン版、「オンライン青研」の実践は、一気に物理的距離を超えて全国の仲間も気軽に参加できる利点を明らかにしています。コロナ禍が落ち着いてからも、オンラインと対面のハイブリッド青研集会にすれば、仕事や家庭で参加できない仲間も、地元からオンライン参加できるかもしれません。また、「オンライン青年団ラジオ」では、Skypeで市議会議員と対談する場をつくり、政治への興味関心を掻き立てる試みになっています。他にもオンラインゲーム大会やボードゲーム大会で息抜きしたり、一緒に遊んだりと、コロナ禍でかかる無形のストレスやオンライン疲れと上手につきあう工夫が青年団らしいと思います。「なんでも真面目にフォーマルに」ではなく、日常のたわいもない会話、じやれあいのような言葉のキャッチボールは、デジタル空間に囲い込まれがちな日常の息苦しさを逃がしてくれる、これも大切な取り組みです。

このように会議、交流会、ゲーム運動会、ワークショップなど延べ36回も精力的に実施しながらも、「現場の活動をいっしょに取り組んでくれた、声をかけて応援してくれた、遠くから見守ってくれた」といった地域の関わりの大切さだけは補えない、という気づきは青年団活動の本質を浮き彫りにしたともいえます。「今は生き延びて組織を存続させる」という思いから生まれた実践かもしれません、青年団活動の新たな地平が開けていくのを感じさせます。

<準実践大賞>

池田町青年団（福井県）

スカイランタン in いけだ

■実践概要

池田町青年団は、コロナ復興・青年団員の勧誘・交流を目的に、昨年11月にランタンの打ち上げを行った。初めての試みとなったこの事業は、三密を避けるため屋外で何か事業ができないかと思い、始まったことがきっかけだった。本番を想定し、準備段階で様々な工夫を団員たちと考えた。暗闇での打ち上げでなければランタンの明るさは映えないが、足下が見づらくなり転倒しやすくなってしまうことを懸念。他にも打ち上げた後のランタンはゴミとなってしまうため、地面に固定するなどの工夫を凝らした。これらの打ち上げの際の準備や、ランタンを飛ばす際は多くの方に携わっていただき、池田町の空へときれいに羽ばたかせることができた。詳しい方向性は決まっていないが、この経験を活かして、今後も開催していきたいと考えている。

感染対策をふまえ、屋外ができる新たな試みを模索し、改善を重ね今後も開催していきたいと前向きにとらえている取り組みだ。

■審査員講評

準実践大賞おめでとうございます！。コロナ禍、様々な制約があり活動が制限される中、団員の新規勧誘と交流のため「三密を避けながらなおかつ参加者が楽しめるものを」との想いで考え企画を練ったとのこと。地元の自然体験レジャー施設を舞台に屋外という事で三密を避け、そこでLED電球を入れた風船“スカイランタン”を夜空に飛ばす、団員の若い発想が發揮された楽しいイベントです。

施設に来ていた外国の方を含めた若い観光客も楽しそうと興味を持ってくれて準備作業に加わり交流が生まれました。応募写真からも夜空に浮かぶきれいなイルミネーションと楽しさが伝わります。団員以外との交流、ゴミ問題回収まで気を配った点や継続への意欲も評価されました。初の試みを短い期間で準備し、当日小雨のなかでの作業など様々な苦労があったと思いますが、今後も長く続け大きく伸ばして欲しいと期待します。

<実践奨励賞①>

大郷町青年団（宮城県）

令和3年大郷町成人式企画「成人式の思い出を永遠に」

～フォトスポット設置＆記念品配布～

■実践概要

1月10日に令和3年度大郷町成人式企画「成人式の思い出を永遠に」を、団員と町と新成人による実行委員で開催。コロナ禍ということをふまえ、昨年11月から開催可否について議論を重ねた結果、来場者数を新成人と来賓のみに限るなど人数を制限し、感染対策を徹底することでようやく開催までこぎ着けることができた。

大郷町青年団は、成人式でフォトスポットの設置と、記念品を配布した。会場入り口に設置されたフォトスポットは、来場できない保護者の方も撮影できるよう、金屏風と成人を示す「20」という形の黄色の風船を設置した。記念品には、市販の飴に「成人おめでとう」のメッセージと大郷町のPRキャラクター「常のモロ」のヒゲを模した飾りをつけたものを配った。大郷町青年団の広報新聞やPRチラシも同時に配布することで、団のPR活動につなげることもできた。

コロナ禍でも新成人をお祝いすることで、青年団のアピール活動につなげられ、大郷町の新たな世代の門を祝う取り組みだ。

■審査員講評

実践奨励賞受賞おめでとうございます。青年団にとって地元の成人式は、青年団活動をPRする重要なチャンス。しかし、今年は各地の成人式が相次いで中止となる中、大郷町は実行委員会の判断で式典後の懇親会は行わないなどコロナ感染予防対策を徹底して開催することとなった。大郷町青年団は開催とはなったものの、例年通りとはいえない成人式を少しでも思い出に残るものにして欲しいとの気持ちで活動のPRとともに祝いの企画を行った。

まず、地元のネットワークを活かし宮城県青年館から借用した“金屏風”を立て、団員直筆のお祝い横断を掲示して記念写真撮影用のフォトスポットコーナーを設けた事。もう一つは“おめでとう”的メッセージと、じもキャラを飾った“チュッパチャップス”を記念品とした。いずれも大がかりなものではないが、コロナ禍の制約の中だからこそうれしい気配り、手作りで心のこもったアイデアで新成人だけでなく親御さんの気持も“あがる”活動と評価します。審査会では「今後のますますの充実と発展を期待する」のとの声もありました。

＜実践奨励賞②＞

羽咋市青年団協議会（石川県）

オンラインサンタ宅配便

■実践概要

羽咋市に拠点を置く羽咋市青年団協議会は、毎年クリスマスの時期に「サンタ宅配便」を行っている。市内の未就学児を対象としたこの事業は、サンタやトナカイに扮した団員が子どもたちにプレゼントを届け、市内の子どもたちにクリスマスの夢を贈ることを目的としている。サンタは、1軒1軒にプレゼントを届けるため、市内の各家庭を訪問する必要がある。昨冬はコロナ禍を鑑み、本当に実施してもいいのかと悩んでいたところ、団員の「オンラインでサンタ事業はできないかな？」という一声をきっかけにオンライン開催の方向性は決まった。しかし、初の試みで喜んでもらえるか不安な気持ちが募りながら準備を進めていった。スタッフは、青年団員だけではなく町の青年に声をかけ、オンラインではどのような演出ができるのかについて知恵を振り絞り準備を進めていった。当日は保護者の方に事前にお願いして、クリスマスソングと一緒に歌い、家のどこかに隠れているプレゼントを探してもらうなど、サンタの魔法がかかっているような演出もできた。

例年行っている事業を、社会背景に合わせて見直し、団内外の交流を深められる機会ともなった取り組みだ。

■審査員講評

実践奨励賞の受賞おめでとうございます。

サンタクロース事業は多くの青年団が取り組んでいますので、本実践はポスト・コロナの世界に向けて全国の仲間とぜひ共有してほしいという思いも込め、実践奨励賞を贈らせていただきます。

コロナに負けずにオンライン上でサンタクロース事業を継続しようと挑戦したことほどても素晴らしいと思います。オンラインを通じて、子どもたちと一緒に歌を歌ったり、プレゼントを探させたりといった演出プランもよく考えられ、その実施方法や内容は全国の青年団仲間にも参考になる取り組みです。

今回、参加は2軒4人と少なかったですが、子どもたちにとってもコロナのお陰で楽しい思い出

となったのではないかでしょうか。コロナは子どもを取り巻く環境も厳しくしている中、今回の挑戦から学んだ反省点も生かして、子どもたちの笑顔があふれる活動へ広がっていくことを心から願っています。

<実践奨励賞③>

大野市灯そう会（福井県）

灯そう会ラジオ企画「いっぺんラジオきいてねんや」

■実践概要

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大野市は「人との接触を避ける活動」を方針として打ち出している。お祭りや青年団活動が制限されるなか、大野市灯そう会では大野市をPRするため月に一度、YouTubeで動画を配信することに決めた。今まで、活動を撮影し動画として配信してきたことはあったが、動画を配信するための活動は今回が初めてであった。当初「マスクを手づくりしてみた」をテーマに撮影準備を始めたものの、収録するための校正や収録方法は手探りの部分が多く、メンバーと話し合ったところ見送りとなつた。そこで、ラジオ配信風動画配信を行うという方向性が転機した。また、メンバーの一人に、大野市をテーマにした曲を収録した動画配信をしている人がおり、その曲のフレーズをお借りし「いっぺんラジオきいてねんや」となつた。

事業を中止するのではなく、3密を避けながら行うイベントが開催されるようになり始めたため、テーマは新たな情報提供の場を行うこと決めた。メンバーの職業をいかしてパーソナリティーを決め、話し手を決めていく予定だ。動画配信活動企画としては発展途中だが、いずれ大野市に影響を与えるような団体をめざし、日々精進している。

一度決めたテーマでも、それが最善かどうかメンバー一丸となって真摯に向き合い、あきらめずに施行錯誤している取り組みだ。

■審査員講評

実践奨励賞の受賞おめでとうございます。

壁に当たりながらも、コロナ禍に於いての、新たな活動を生み出すことを諦めずに取り組み、仲間の得意とするラジオ型動画配信としたことは、これから活動にも期待したい取組です。また、配信内容を、地域の情報としたところは、青年団の役割としても、大変すばらしい内容となりました。今後は、地域の団体など、多くの方々を巻き込みながら、放送をつくり配信することで、広報活動として、地域内外の人への発信にも力を入れてほしいと思います。

動画の再生回数も増やしていくことで、全国の青年団員の手本となり、よりよい広報ツールへとなっていくものだと思います。

断念した手作りマスク企画もニーズの可能性があり、残念との声が審査員からもあがりました。新たな企画も地域の方々の協力得ることで、実現できることが多くありそうです。今後の活動に期待しています。

<支援実践賞>

岡山県青年団協議会（岡山県）

青年団体活動紹介冊子『エール』

■実践概要

県内でできる新型コロナウイルス感染症拡大に努めた活動は何かを考えた際、青年団活動紹介冊

子の作成を考案した。県内で活発な活動をしている青年団体の実践を取材し、冊子を配布することで地域活動における青年団の大切さや良さを伝えるため、冊子『エール』の作成に取りかかった。冊子講習会をひらき、何を伝え、読者にどのように受け取ってほしいかを考える時間をつくり、構成を練っていった。各団体の活動内容に加え、活動に対する思いや展望を記載した。活動紹介が目的だった冊子づくりだったが、取材や執筆を重ねるにつれ、各団体の良さや課題を再認識する機会ともなった。今後は、今回の活動から得た知識をふまえ、他団体と共有しあう共同学習の場を設けていきたいと考えている。互いに高めあうような、青年同士のネットワーク構築をめざし、青年団体が地域で自毒活動な活動ができるよう支援していくたらと展望を語る。

新たな取り組みで気づかされたことも多く、その経験からまた新たな活動展開をめざす取り組みだ。

■審査員講評

教宣活動ではなく地域活動の部に応募している意味は、おそらく企画会議で目的を明確にし、取材を通じて各団体の魅力を引き出し、県内の青年団体みんなで共有していく過程を重視しているからではないでしょうか。団体ごとの生き生きとした活動の様子に加え、岡山県青年団協議会が冊子に込めた思いも伝わってきます。青年団体の地域活動を活性化する取り組みであり、立派な組織活動でもあります。コロナ禍での緊急的な企画だとは思いますが、応募書類にある通り、この冊子と作成経過を活用した学習の場に発展させたり、平常時であってもこうした取り組みを継続させて、広報だけではない学習活動をベースにした教宣活動につなげてほしいと思います。作成されたばかりでこれからだとは思いますが、発行部数や読者対象を明確にして、計画的で効果的な配布による最大限の効果を期待しています。それが可能な内容だと思います。

＜その他応募があった実践の概要と審査員講評＞

鯖江市連合青年団（福井県）

コロナ禍で取り組んだサンタ宅配便2020

■実践概要

鯖江市連合青年団は、市内の保育園と公民館の協力のもと、毎年12月にサンタ宅配便事業を行っている。これは、保育園に通園している園児や学童を対象に、サンタやトナカイの格好に扮した青年団員が申込のあった家庭にプレゼントを届ける事業だ。コロナ禍ということもあり、例年と同様の募集方法・開催方法のまま本当に良いのか議論を重ねていった。話し合いの結果、直接の接触を控えるため、申込方法はグーグルフォームを用い、チラシの配布はポストを経由するなどの感染対策を行いながら実施した。チラシは、感染対策の実施や申込から配達までのフローチャートを明記。青年団員以外にもスタッフを募るためにチラシを作成し、成人式実行委員会やグループLINEでの募集活動に励んだ。県内での感染者発生に伴い、キャンセルされた方もいたため申込の人数は少なくなってしまったが、お礼のメールをいただくなどやりがいを感じている。スタッフについては、新成人の参加がいなかったものの、今後は新規の参加者と過年度の参加者に参加し、スタッフのリピーターを増やしてきたいと前向きに考えている。オンラインでの申込により、参加者からの問い合わせや申込に関する疑問に回答でき、オンラインでの申込方法にも可能性を見いだすことができた。

申込の段階から感染対策を徹底させ、参加者とスタッフの両者獲得をめざし、意気込みが見られる取り組みだ。

■審査員講評

コロナ禍に於いて、サンタ事業の継続開催については、どの地域の青年団も悩み、開催可否の決断をしたことと思います。

今回の、開催については、募集定員としていた各日20戸からは、参加件数7件となった開催でしたが、スタッフの募集も行い、リアルで会うことを大切にして、何とか訪問実施できたことは、地域の方々にも心が通じた取り組みになったことだと思います。

申込の方法の工夫や、到着直前にプレゼントを預かるなど、家庭にも負担をかけないような工夫ができたことは、大変良い取り組みとなりました。

終了後の青年団の仲間でのクリスマス会を実施したことについては、審査員の中からも少し心配という声もありましたが、新たに参加した仲間の声を聴き、次につなげる良い機会になったかと思います。今後の活動にも期待しています。

大虫地区青年学級「近所の子ら。」

宅配サンタ with コロナ

■実践概要

越前市大虫地区では、申し込みのあった子どもたちの家にサンタとして大虫地区青年学級「近所の子ら。」が訪れる。コロナ禍となった今年は、この宅配サンタを直接家に伺うのではなく、サンタからのメッセージとして動画をお送りすることとなった。感染症拡大防止のため、サンタに扮した青年団員の訪問は取りやめ、クロマキー合成を活用したサンタの家の背景を摸し、サンタがサンタの家から子どもたちにメッセージを視聴いただくことにした。初めての合成作業で、編集の仕方を調べながら手探り状態で準備を進めていったが、うまく合成できたのでやりがいを感じている。また、動画を見た子どもがとても喜んでいたと好評の感想もいただいた。今回の活動で初めて取り組んだ合成作業だったが、今後の活動に活かしていきたい。

制限ある活動ではあるものの、どのような方法なら実現できるかを模索し、好評に終わった取り組みだ。

■審査員講評

平成以降、全国の青年団や地域の若者グループにも広がった「宅配サンタ」。秋田のなまはげが家々を回ったように、サンタに扮したメンバーが地域の子育て世帯と触れ合い、若い世代にも地域のつながりを感じてもらうなど今日的効果を生んできました。残念ながら新型コロナの影響で、多くの事業が中止や延期を強いられる中、オンラインをうまく取り入れた企画になっていたと思います。プレゼントの代わりに、オリジナルの映像を作成し、しかも家庭ごとに内容を変えたビデオレターを用意するほどの驚くほどの丁寧さに驚き、こだわりが伝わってきました。メッセージカードにQRコードを添えるなど、Xmasらしさとプレゼント感覚が添えられ良いアイデアだと思います。オンラインでの実施は初めての試みかと思いますが、今後も続くとすればもう少し参加家庭を新規開拓してほしい点と、大虫地区を離れている家庭やプレゼントを用意できない家庭など、オンラインならではの特徴を生かした取り組みを期待しています。

<教宣大賞 資料>

鯖江市連合青年団（福井県）

鯖江市連合青年団 PR チラシとマスクケース

**2020年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）**

応募団体名	(ふりがな) さばえしれんごうせいねんだん 鯖江市連合青年団	応募部門	<input type="checkbox"/> 地域活動の部 <input checked="" type="checkbox"/> 教宣活動の部
活動名称	(ふりがな) さばえしれんごうせいねんだんびーあーるちらしとますくけーす 鯖江市連合青年団PRチラシとマスクケース		
活動実施日	2020年 11月 7日	~	2021年 1月 10日
活動場所	鯖江市青年会館		
関係者数	4人	参加者数	
活動概要	(200字程度) 鯖江市連では4年前より、「成人式サポート事業」として成人式実行委員会に参加している。そのつながりもあり、今年成人を迎える鯖江市の新成人約750名向けに鯖江市連合青年団の団体紹介のチラシとオリジナルマスクケースを配布するため作成した。オリジナルマスクケースに関しては、新成人の子が作成した「オリジナルロゴ」を頂きデザインした。		

活動報告

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。

※文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

※「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

—————<以下よりご記入ください>—————

①企画の目的

鯖江市連では4年前より、「成人式サポート事業」として成人式実行委員会に参加している。その中で実行委員会の方と触れ合う機会があり、団体の存在や過去には活動に参加してくれたこともあった。しかしこれまで新成人全体に対してはチラシなどの配布はあまりできておらず口頭での紹介のみであった。今回は新成人全体向けのチラシ作成とオリジナルのマスクケースを作成し配布することにより団体の紹介&PRを実施することにした。

成人おめでとう

新たに鯖江市で成人を迎えた皆さん、おめでとうございます。
私たちは、今回の成人式にサポーターとして参加をさせていたたいておりました、「鯖江市連合青年団」と申します。

このチラシでは、少しだけ青年団の紹介をさせていただきます。



鯖江市連合青年団



「青年団」って?

初めて青年団という言葉を耳にした方もいるでしょう。青年団ってまだあったの?という方もいるでしょう。
簡単に青年団について教えましょう!
青年団とは地域を基盤にした若者の集団です。そこに住む若者なら、誰でも入ることができます。
婦人会や老人会、壮年会ってご存知でしょうか?青年団は、その青年バージョンなのです。
皆さんのご両親に尋ねてみるといいかも知れませんね。
私たち鯖江市連合青年団は、20歳前後から30歳前半までの男女が集まり、地域の祭りに参加したり、スポーツで交流を図ったり、ボランティア活動したりと、様々な活動を行っています。

どんなことをしているの?

最近はこんなことをやっています♪



保護団との交流会
持株会議、サンタモ配付



祭りでの模擬店出店
地区的夏祭り



市内のイベントの協力
(旗を島合青年団)



県内の青年団との交流
体育祭、文化祭



県外青年団との交流
滋賀県とのスノーボード交流会



新成人実行委員のサポート
(実行委員会、当目)

一緒に活動しませんか?

こんな私たちと一緒に活動しませんか?
興味のある人は右の問い合わせ先にご連絡ください。
あなたからのご連絡をお待ちしています!!

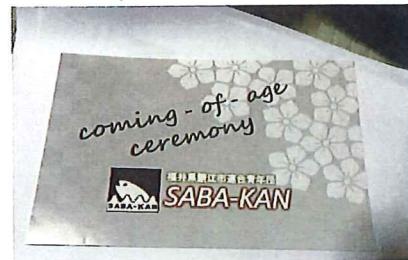
Mail: sabae_seinendan@yahoo.co.jp

団長 酒井 卓也

①オリジナルマスクケース



新成人の方が成人式に向けて、
作成したオリジナルのロゴ
(※許可を得て使用)



③まとめ

配布は1月10日に予定している。また、1月下旬には「成人式実行委員会の反省会」があるため、別途団体のPR等を計画したいと考えている。

以上

<準教宣大賞 資料>

安城市青年団協議会（愛知県）
安城市青年団協議会×リネーブル
合同企画 名刺作成

2020年度全国地域実践「実践大賞」 アピールレポート（共通・設問有り）

応募団体名	(ふりがな) あんじょうしせいねんだんきょううきかい 安城市青年団協議会	応募部門	<input checked="" type="checkbox"/> 地域活動の部 <input type="checkbox"/> 教宣活動の部
活動名称	(ふりがな) あんじょうしせいねんだんきょううきかい りねーぶる ごうどうきかく めいしせいさく 安城市青年団協議会 × リネーブル 合同企画 名刺作成		
活動実施日	2020年 3月 25日 ~ 2020年 7月 16日		
活動場所	就労支援団体 リネーブル事務所		
関係者数	15名	参加者数	10名
活動概要	(200字程度) 就労支援団体 リネーブルが事務所移転のためのクラウドファンディングを2020年2月頃に募集をしていたところ、安城市青年団協議会として出資を行いました。 リネーブルが就労支援として名刺作成を行っていると聞いて、返礼品として安青協の名刺を作成してもらうことになった。 名刺に記載する内容やレイアウト、イラストデザインなど、打ち合わせをリネーブル事務所にて行った。感染症対策にて対面の打ち合わせを避け、LINEに試作品の画像を展開するなどして、7月に完成させることができた。合わせてTwitterにて活動を発信するようになりました。		

活動期間

<アピールポイント>

- ①活動の詳細を以下に自由に記載してください。文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。
- ②文字の大きさやレイアウトに指定はありません。
- ③「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

■活動のきっかけ、準備期間に關すること等

就労支援団体リネーブルと共同で活動をしていて、リネーブルがクラウドファンディングを展開していることを聞き、安青協内でカンパを募り、集めたお金を提供しました。
リネーブルの就労支援活動に名刺制作があり、返礼品のメニューに名刺制作はなかったですが、名刺作ってほしいです！とお願いをしたところ、快く受けていただきました。
青年団活動の際に他団体と一緒に活動することがある為、はじめての挨拶に名刺を渡すことで、青年団のアピールや、他団体との交流のきっかけつくりが出来たらと思い
安青協とリネーブル共同の名刺作成に取り組みました。

■活動中の苦労、印象深かったこと等

名刺作成の打ち合わせを進める中で、コロナウィルス感染拡大により緊急事態宣言が発出されました。
安青協とリネーブルの活動が停止し、名刺作成も止まってしまった。
名刺のレイアウトなど口頭で話したり、メールやラインで話して対応したが、自分の思っている事を相手に伝える事のむつかしさを感じました。
複数のデザイン案を作ってもらい青年団のメンバーの意見の聞き取りを行い、修正作業を繰り返したことで理想的な形の名刺がつくれました。

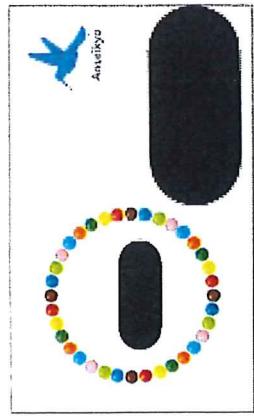
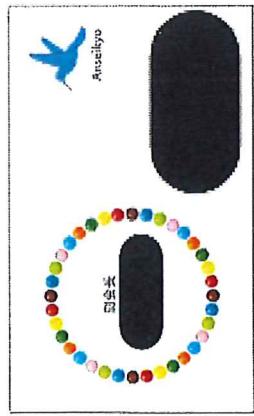
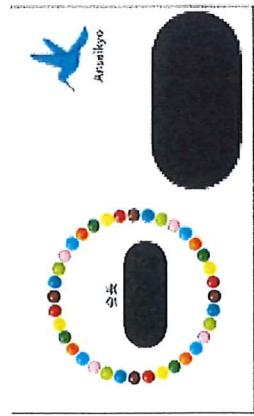
■活動の成果、今後の展望に關すること等

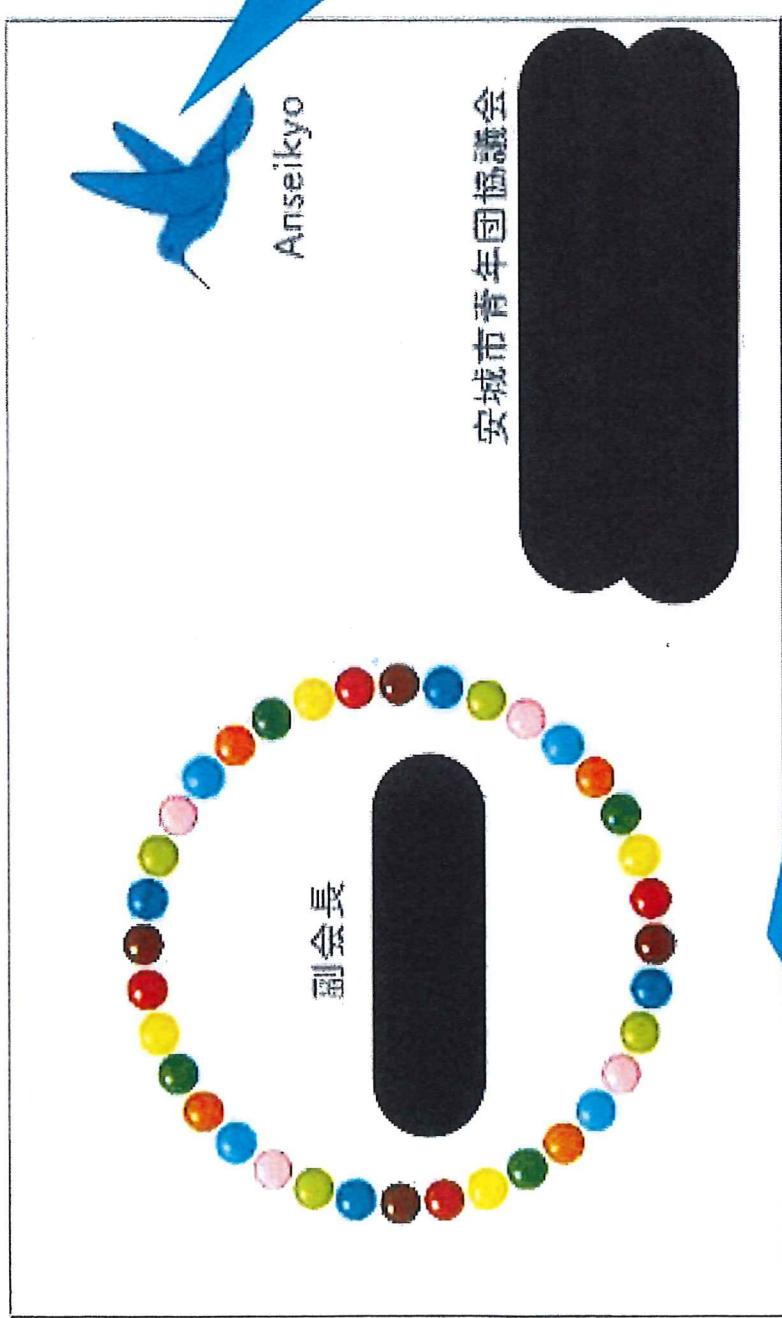
他団体との交流の際には必ず名刺を交換するようになりました、自信をもって名刺を渡すことができます。
名刺交換ができると、次に会ったときに名前を覚えてもらうことができ、
安青協のアピールにつながったと感じました。
実際に名刺交換したときに、かわいいデザインですね、と注目してもらえてうれしく思います。
今後そのようにして知り合った人たちと交流をしていき、
関わりの中で学び得た事を青年団の活動に活かして、
これから活動をよりよいものにしていけたらと思います。

■自由記述欄（各欄で記載できなかつたこと等）

デザインについて、複数の候補の中から私たちはマーブルのデザインを採用しました。
その理由は、カラフルなマーブルの色に青年団員の個性を表現しました。
マーブルの輪にはそれぞれの個性を生かし、団員が協力しあい力を合わせて、
様々なことに取り組みたいという思いを込めました。
ロゴマークの青い鳥は青年団の「青」の字をモチーフにブルーを採用し、
小鳥は自由にはばたく若者をイメージしました。

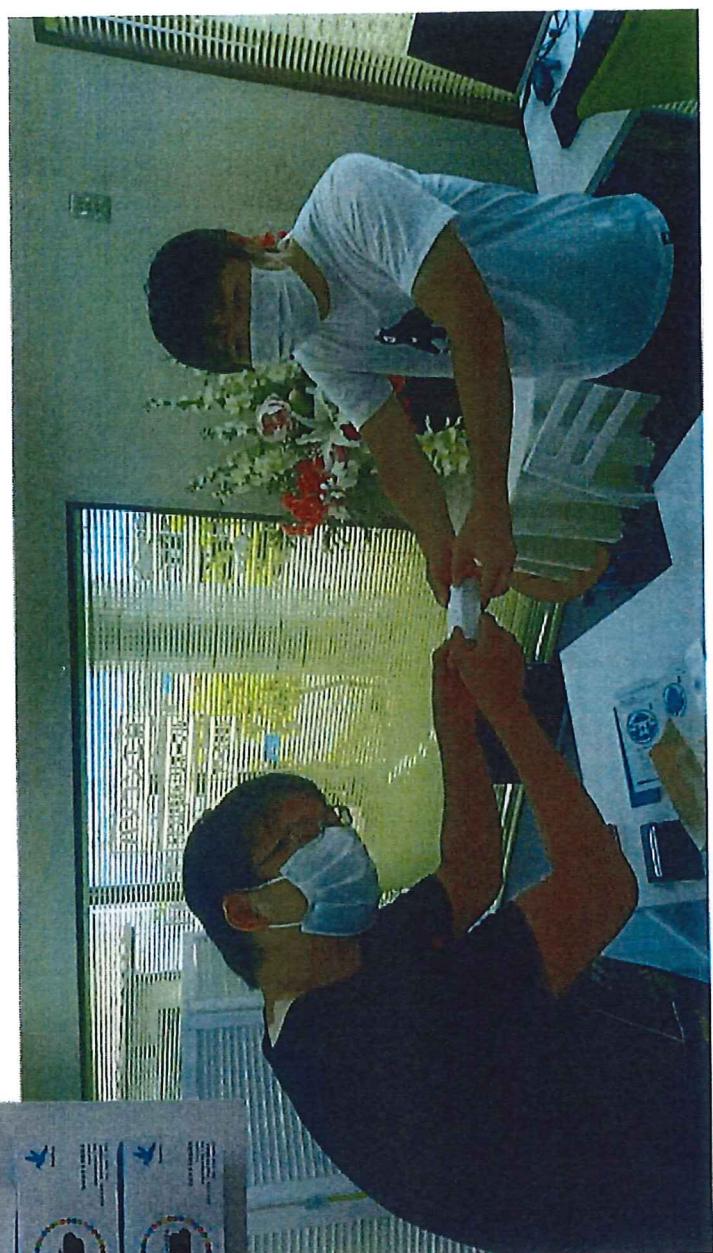
以 上





ロゴマークの青い鳥は
青年団の「青」の字をモチーフに
ブルーを採用し、
小鳥は自由にはばたく
若者をイメージしてリネーブルの
西部君にイラストを作成してもらいました。

カラフルなマーブルの色に青年団員の個性を表現しました。
マーブルの輪にはそれぞれの個性を生かし、団員が協力し力を合わせて、
様々なことに取り組みたいという思いを込めました。



2020年度全国地域青年「実践大賞」報告書

教宣活動の部 実践概要・講評

実践大賞 教宣の部に応募された

実践概要・審査員講評

※概要は応募されたアピールレポートから抜粋

<教宣大賞>

鯖江市連合青年団（福井県）

鯖江市連合青年団 PR チラシとマスクケース

■実践概要

鯖江市連合青年団は4年前から始めた「成人式サポート事業」として、成人式実行委員会に参加している。以前から新成人に活動紹介を行っていたものの、口頭説明のみにとどまっていた。しかし、今年は成人式を迎える鯖江市の新成人、約750名向けに鯖江市連合青年団の団体紹介のチラシと、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため必要なマスクを入れるマスクケースを作成することとなった。チラシの見出しには「成人おめでとう」の文字を大きく表示し、青年団の紹介や写真を用いて活動内容について記載した。マスクケースには、新成人が成人式のためだけに作成したオリジナルロゴを用い、鯖江市連合青年団の文字を入れることで、成人式でありながらも団体をPRできるようデザインした。

新成人を祝う気持ちと、青年団活動のPRをめざした取り組みだ。

■審査員講評

教宣大賞おめでとうございます！新成人が成人式に向けて作成したロゴをマスクケースに使用したコラボは若者同士のいい取り組みで、成人式実行委員会として関わる中で地域との連帯感を感じられます。表は新成人のロゴ・裏は青年団のSABA-KANのロゴで、新成人を青年団がしっかりとバックアップしている印象を受けます。青年団のことをよく知つてもらうためのチラシは「成人おめでとう」のメッセージがほほえましく、青年団PRに必要な要素の文章・写真がとても良くまとまって表現されています。チラシをマスクと共に配ったことの相乗効果で良い宣伝の役目を果たしていると思います。コロナ禍での活用を意識したマスクケースの発想はとてもよく書類入れとしても使え、常に持ち歩き目に触れることが多いためPR効果が大きいと思います。成人式という特別な日のプレゼントは新成人の方々に喜ばれ、青年団の存在が記憶に残せたことで団員が増えることを期待します。これからも新成人のサポーターとして力強い取り組みをしてください。

<準教宣大賞>

安城市青年団協議会（愛知県）

安城市青年団協議会×リネーブル 合同企画 名刺作成

■実践概要

昨年、就労支援団体「リネーブル」が事務所移転のためクラウドファンディングを実施し、安城市青年団協議会として出資した。就労支援として名刺作成を行っていることを伺い、返礼品として名刺の制作をお願いしたそうだ。活動は他団体と合同で行うこともあるため、自己紹介も含め青年団のアピールや、他団体との交流のきっかけにもなると考えたそうだ。青年団員のメンバーには、複数のデザイン案のなかから意見の聞き取りを行い、妥協せずに修正作業を繰り返す。理想的な名刺をつくりあげることで、自信をもって名刺を渡すことをめざした。実際、完成した名刺であいさつをすると、デザインについて好意的な感想をもらえ、また、どうしてそのデザインにしたかなどこだわりの理由を述べてしまいたくなるほどだ。名刺には、青年団の「青」をモチーフにし、自由

にはばたく若者をイメージした青い鳥が飛んでいる。名前を縁取る色とりどりなマーブルカラーはそれぞれの個性をいかして互いに協力し合う意味を込めている。

個性豊かな青年たちが、他団体と手をとりあいながらひとつのものをつくりあげた取り組みだ。

■審査員講評

準教宣大賞おめでとうございます！地域の他団体リネーブルさんとコラボし、若者による若者支援という意味も含んだ取り組みが新しい点として評価します。前回に引き続きパートナーとしてお互いに良い関係を築けているように見受けられます。クラウドファンディングの返礼品に名刺デザインをお願いするという発想が斬新で面白いです。リネーブルとの若者同士のコミュニケーションでコロナ禍でも何度も打合せを重ねたからこそ、自分たちの思いが伝わり良い物ができたのでしょうか。デザインも若者らしくかつ個性的で記憶に残ります。カラフルなマーブルの輪には意味があり、Anseikyo のマークは日青協マークの鳥をイメージさせかつ自分たちの「自由に羽ばたく若者」がうまく表現されています。裏面はシンプルで青年団ブルーにインパクトがあります。思いを込めた名刺を他団体との交流の場で青年団組織の理念を伝える大事な道具として活用し、安青協をアピールして盛り上げてください。

<教宣奨励賞①>

日野町連合青年会（滋賀県）

団員募集（チラシ）、広報活動（機関紙「ひのせいねん」）

■実践概要 団員募集（チラシ）

日野町連合青年会では、新入団員獲得をめざし昨年4月に「教宣学習会」を実施した。パソコンを用いてチラシ作成をする上で必要な技術を一から学び、団員一人ひとりがまずは自分なりにチラシを作成。つくったチラシをお互いに見せ合いながら意見を出し、同じ書き方をしている部分をまとめていった。次に、パソコンを使って作成する者と、手書きで作成する者と分かれてチラシ作成に取りかかった。できあがったチラシから更に、アイディアを終結させ、懇親の一枚をつくり出すことができた。作成したチラシは、町内のコンビニや公民館、施設に置いてもらい、日野町成人式でも全員に配布するなど呼びかけも積極的に行った。公民館では、最も目の引いたのは青年団のチラシだったと言われ、チラシを見て活動を見学したいという問い合わせもあり、チラシの成果も出てきている。今後は、他の団体などのチラシを参考に、今後もより良い募集活動に努めていきたいと語る。

ITと手書きの利点を見極め、団員一人ひとりが熟考し、ひとつのものをつくりあげた取り組みだ。

■実践概要 広報活動（機関紙「ひのせいねん」）

数十年前から引き継がれている伝統ある機関紙「ひのせいねん」。発行回数を減らしながらも、4つのこだわりを引き継ぎ、発行している。1つ目は「団員全員で取り組むこと」、2つ目は「手書きで作成すること」、3つ目は「見出しの工夫」、4つ目は「地域とのつながり」だ。こだわりを始めた機関紙を読んだ町内の方々には、「いつも読んでるよ」「頑張ってるね」と励みと労いの言葉をいただく。記事の見出しへは、事業名をそのまま使うのではなく、読者が読みたくなるようなアレンジを加え、視覚的に訴えられるようトーンを活用するなどの工夫を凝らしている。検討を重ねた結果、折り込み用紙を皿半紙B4サイズを用いるなど、用紙へのこだわりも忘れない。連載記事「Welcome OBさん」では、先輩方とのつながりをつくるで思いの継承もつづけている。今後は、地域にしっかりと想いを発信できるよう、これからも団員全員で頑張りたいと抱負を語る。

伝統を引き継ぎながら、地域やOBとのつながりを維持するため試行錯誤している取り組みだ。

■審査員講評

<団員募集（チラシ）、広報活動（機関紙「ひのせいねん」）>

教宣奨励賞の受賞おめでとうございます！今回の受賞は、広報活動におけるチラシ作成と長年発行を続けている機関紙の取組みの両方が評価されての受賞となりました。両方の作品が手書きで、とても温かみのあるものでした。チラシは公民館などを中心に配布し、新聞は全戸（6900戸）に新聞の折り込みされており、地域に根差した活動では、審査会でも好評でした。チラシは写真がたくさん使われており、どんな活動を行っているのかとてもよくわかります。教宣学習会を開き学んだことがよく盛り込まれています。公民館などの社会教育施設だけでなく、コンビニにも置いたことには驚きましたが、それだけ地域にとって日野町連合青年会が身近な存在であることがよくわかります。

機関紙作成にいたっては、一貫して会員全員の共同作業となっていますね。こうした取り組みが団員の結束力を高め、コロナ禍に負けない組織づくりにつながっているのではないかでしょうか。

新しい仲間との出会いをつくるチラシ、地域とのつながりを意識した機関紙。これからもみなさんが地元で青年たちがイキイキと活動する中心的存在となることを期待しています。

<団員募集（チラシ）>

教宣奨励賞おめでとうございます！コロナ禍に自分たちができる課題として、仲間を増やそうという前向きな心意気を感じます。少ない人数の中でコンビニ・公民館・施設など町内各所にチラシを配置し、成人式での配布など1年間通して努め、町民の方々にも好評だったことは地域との連携が非常にうまくいっている現れだと思います。教宣の学習をした上で、時間をかけてお互いのコンペで良い点をピックアップしてまとめるというコミュニケーションはとても大事なことで、そういうプロセスを経てできた点も評価します。デザインは「ひのせいねん」と同じく手描きで素朴感があり親しみやすく、「Together しようぜ！！」のキャッチが効いていてメリハリがついています。せっかくカラフルにするならベタ面をつくり強調されるような工夫があるとよかったです。チラシが多くの方の目に留まり青年会の存在を広く認知させることで団員が増え、活動が継続されることを期待しています。

<教宣奨励賞②>

岡山県青年団協議会（岡山県）

地域パワーアップ エコバッグ

■実践概要

昨年6月、岡山県青年団協議会はコロナ禍でもできる活動はないか模索し、青年団の教宣グッズをつくることに決まった。しかし、なんのグッズを作成するか迷い、レジ袋有料化のニュースに注目した。団員の一人にコンビニで可愛いバッグをもらったことが嬉しかったという意見を聞いて、エコバッグの制作に取りかかった。教宣グッズを製作すると決まり、なかなか陳直が見られなかつたが、身近なところにヒントがあると気づけた瞬間である。デザインは岡山で愛される桃太郎をモチーフにし、若者を応援しているイラストを考え、日常的に使用できるエコバッグにしたため活動の宣伝もしやすくなった。今後は、県内の様々な世代に興味をもってもらえるよう、エコバッグをかつ調子手青年団の活動をPRしていきたいと語る。

身近な生活からアイディアを拾い、環境問題をとらえた取り組みだ。

■審査員講評

教宣奨励賞の受賞おめでとうございます。

レジ袋廃止となり、エコバックが必要となった今、求められる物をつくるフットワークの軽さと機動力は素晴らしい取り組みです。実用性の良さと、地域の特色を出したイラストも良く、評価します。

青年団の応援団としてOBへの配布については、単なる応援団というだけではなく、これを機に先輩方より昭和時代の環境運動への取組の様子など伺い、過去の運動から学び未来に繋ぐ取組となれば、更にこのエコバックもパワーアップの意味が増します。また、SDGsへの取組も青年団で学習され、バック配布とあわせた取り組みにしていくなど、新たな運動にも結び付きそうです。エコバックをつくるという一つの取組から広がる運動の実践として、さらに全国の青年団の手本となる活動へ、今後の活動に期待しています。

＜その他応募があった実践の概要と審査員講評＞

栗山町青年団体協議会

KSKパークー＆名刺制作

■実践概要

2015年に会員の新規増員をきっかけに、組織体制を改めていく流れができた栗山町青年団協議会。その際、団体名称の略称として今まで使われていた「栗青協」とは別に、親しみやすさを考えて「KSK」という略称をつくった。団外から見ても青年団とわかりやすくし、さらに団員の一体感を出すため、略称が記されたユニフォームを制作・着用し活動をしたいと構想した。しかし、興味をもってもらうことは容易ではないと感じていた団員は、話し合いのなかで視覚的に訴えれば、見た人が興味を持つてもらえると考えた。もしユニフォームができれば、活動を続けていくうえで心強いアイテムとなるとも思い、5年もの歳月をかけ、パークーと名刺の制作に取り組むこととなった。若い人にも好感を持ってもらえるよう、豊富なカラーバリエーションを用意した。活動内容や団体を示すデザインも、時代の流れに合わせてブラッシュアップしていくことを意識していきたないと語る。

長年の歳月をかけ、時代にあわせた活動のアピール方法について考えた取り組みだ。

■審査員講評

2007年度に団員数が増えたことを機に、従来の略称として使用していた栗青協という地域に浸透した団体名に加え、より若い世代にも覚えてもらえるようにKSKという新しい略称名に取り組むなど、青年団らしい新しい着想が審査会でも好評でした。青年団内のさらなる気持ちの統一をはかるため、共有のユニフォームや名刺を制作することはとても良い実践です。実現化まで3年間経過しているのは、活動しながら新しいデザインの検討は大変な苦労があったとお見受けします。レポートにも世代交代を繰り返しながら辿りついたという記載の通り、想いのこもったオリジナルのユニフォームですね。

これまで「青年団」という団体を発信するデザインのユニフォームなどが多い印象でしたが、さりげなく見せる新しい取り組みでした。これから活動で着るだけでなく、日常でも使用し多くの人の目にとめることが、青年団という団体をPRしていくことにつながります。これからの活躍にも期待します。

大和町連合青年団

新人勧誘（チラシ）

■実践概要

団員減少が重点課題となった大和町青年団。イベントの参加や、文化活動からの参加はあるもの

の、青年団としての他の活動にまで参加がつながっていないのが現状である。数年先を見通した際、このままでは団がなくなってしまうという危機感から奮起し、従来の体制や事業の見直しを行った。団外への広報として、成人者や地元高校卒業者に向か、新人勧誘を目的としたチラシを制作。目に留まるようデザインとタイトルを練り、「青年団を一言でいうと」をテーマに、一人ひとりが意見を出し合い、全員が最も納得した案を採用した。固くならないよう、遊び心を加えた構えや主な活動のほか、県規模の活動も記載することで、入団後は広い交流ができる機会があることをアピールした。連絡先を両性にすることに加え、公民館の窓口も増やし、連絡しやすい環境づくりも怠らなかつた。青年団の将来を見据えた際、団内外に視野を広げ、団員の新規獲得に専念した取り組みだ。

■審査員講評

成人式で青年団をPRすることを目的に作成したチラシに、早速効果があったことはやはり青年の目線や視点で制作されたからですね。本当におめでとうございます。今年二十歳になった青年たちにとって、今年大流行したアニメの名言は目に留まりやすいですね。加えて、青年団を一言に込められた思いを文字化することは大変なご苦労があったのではないでしょうか。自分の価値観や経験を文字化することは、容易なようで実は困難なことです。それを仲間と語り合いながら紡がれたのがこの「君の気持ち、かたちにする場所」になったということは、今の青年団員のみなさんがそうした経験があったらこそ生まれた言葉だと確信しました。ぜひ、新しい仲間にもこうした体験を提供してください。

最後に一点だけお願いすると、ぜひ活動の写真を入れてください。たくさんの活動があるということは、たくさんのワクワクと出会える場です。それができるのが青年団なんだよ！ということがより伝わるのではないかでしょうか。みなさんの活動がよりハッキリと伝わると思いますので次年度に向けてご検討ください。

2020年度全国地域青年「実践大賞」報告書

特別賞 田澤義鋪賞・全国青年団OB会奨励賞

<田澤義鋪賞 資料>

もりやま青年団(滋賀県)
みんなで一緒に もりやまの輪

**2020年度全国地域実践「実践大賞」
アピールレポート（共通・設問有り）**

応募団体名	(ふりがな) もりやませいねんだん もりやま青年団	応募部門	<input checked="" type="checkbox"/> 地域活動の部 <input type="checkbox"/> 教宣活動の部		
活動名称	(ふりがな) みんなでいっしょに「もりやまのわ」 みんなで一緒に「もりやまの輪」				
活動実施日	2020	4	23 ~ 2020	6	4
活動場所	守山市各所				
関係者数	20	参加者数	約100人		
活動概要	<p>(200字程度) 青年団活動も思うように取り組めないコロナ禍において、見た人に元気を届ける動画作成に取り組んだ。もりやま青年団員とOB、OGさんバージョンの動画を募集・編集し、その輪を県内の他市町青年団や市内のお店・企業・市役所関係の方々へも広げていった。6月に開催を予定していた主催事業を中止することとなり、代わりにコロナ禍の今だからこそ私達もりやま青年団に取り組めることは無いかと考えた結果、発案した取り組みである。</p>				

活動期間 ※準備から活動終了までの打ち合わせやリハーサルなど活動を行った年月を時系列で記入してください。

年	月	活動内容（各別にまとめて記入）
2020	4	コロナ感染者数増加により、毎週水曜日に行っていった青年団室でのミーティングを中止する。 ミーティングを対面ではなく、LINEのビデオ通話機能をりようしたオンライン形式で行う。
		6月に開催を予定していた「Paddy Festival in MORIYAMA 2020」の中止を決定する。その代わりにコロナ禍で行える取り組みを考える。（モザイクアートなどの文化活動、手作りマスク作り、紙芝居作り、YouTubeチャンネルを作つて自分達の活動紹介や守山市の歴史・お店や企業紹介などの動画をアップする）
		様々な意見が出た中で、見た人に元気を届ける動画を青年団から発信していく取り組みはどうか？という意見が出て、企画案作りを行う。
		まずはミーティングに参加していた団員それぞれが動画を撮影し、試作として1つの動画に編集した。 試作動画を元にもりやま青年団員とOB、OGさんに呼びかけ開始。
	5	団員、OB、OGさんバージョンの「もりやまの輪」をもりやま青年団のFacebookとInstagramに投稿。
		他市町青年団、守山市役所、企業、お店の方々などにも動画撮影の協力を呼び掛けることを決め、リストアップを行う。電話やSNSメッセージ、メールなどで連絡し、団員で分担しながら協力依頼する。必要に応じて団員が出向いて動画撮影を行う。
		守山市のFacebookや有線放送で「もりやまの輪」の取り組みを紹介してもらう。
		守山市長や守山市のゆるキャラにも取り組みに協力していただく。
		動画のBGMに使うため、AIさんの「ハピネス」を団員で歌つて録音、撮影。
	6	多くの方にご協力いただいた「もりやまの輪」を2回に分けて、もりやま青年団SNSで投稿。

<アピールポイント>

①活動の詳細を以下に自由に記載してください。文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。

②文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

③「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

■活動のきっかけ、準備期間に關すること等

2020年2月、日本でもじわじわとコロナが拡がりをみせ、たくさんのイベントを中止にする動きが始まった。そんな中、滋賀県内の青年団活動も定期大会や代議員会などといった各活動の延期が続々と決まり、私たち市町団も研究会やその他の活動の延期やミーティングの回数を減らすなど、活動の自粛ムードが広がっていく。新年度が始まり「さあ始めるぞ！」と意気込んでいた私たちとは裏腹に、コロナは本格的に日本中に拡がり、テレビをつければ、増えていく感染者と不要不急の外出を控えるように呼び掛けるニュースばかり。

ミーティングの連絡では、みんなに「団室に来てね」というメッセージを送ることさえも躊躇する。

私たちはこのまま活動を続けていいのか？一体どうすればいいのだ？

東京オリンピックの延期も決まり、全く先の見通しの持てない、誰も経験したことのない事態に戸惑うばかりであった。

2020年4月16日、緊急事態宣言の対象は全都道府県に拡大され、それに伴い活動拠点の団室がある公民館は使用できず、LINEのビデオ通話でミーティングをするようになった。

【ビデオミーティング写真】



毎週水曜日のミーティングでは、当たり前のように団室に集まり、話は脱線するばかり。

何気ない話で声を出して笑ったり、誰かが持ってきたお菓子をみんなで食べて、また駄弁る。

マスクをしてきた人がいたら「風邪？」なんて聞いてみんなに会いに団室に来る団員も少なくない。

当たり前だと思っていたそんな日常が、ある日突然コロナによって奪われた。

しかし、そうした気持ちが沈むような事態の中、「こんな時だからこそ自分たちにできることは何か？」

「コロナなんかに負けるな！」と考えて前を向き、行動しようとしている他の団体を多く目にした。

毎週重ねるビデオミーティングでも、“青年団だからこそ”私たちにできることは何かみんなで意見を出し合い、「こんな時だからこそみんなで一緒に乗り越えよう」「元気の出る動画を作ろう」ということで『みんなで一緒にもりやまの輪』の企画が誕生した。

【もりやまの輪 モリセイver. URL】

<https://www.facebook.com/1560402410888445/posts/2558703937724949/>

もりやま青年団の現役団員とOBOGを含んだもりやま青年団だけの動画から始まり、市民や地域のお店や企業を巻き込んで守山市の輪を作るイメージと、守山市から今度は滋賀県全体へ「みんなで一緒に乗り越えよう」とバトンを繋げるイメージでSNSを使って呼びかけ、依頼し、動画を集めめた。

【もりやまの輪①】

<https://www.facebook.com/1560402410888445/posts/2574153499513326/>

【もりやまの輪②】

<https://www.facebook.com/1560402410888445/posts/2577101462551863/>

■活動中の苦労、印象深かったこと等

感染症予防のために団室が使えなくなる事態、ビデオミーティングというの初の試み、誰も経験したことのない状況に戸惑うばかりであった。また、見えない、知らない未知なものということで、新型コロナ感染症に対する恐怖心が拭えない中、直接お店や企業へ動画依頼をまわれない葛藤もあった。

そんな試行錯誤の中、SNSでの呼びかけや依頼といった取り組みが、有線放送や守山市にも届き、PRさせていただく機会の獲得や、動画に守山市長が出演してくださるといったことにまで繋がった。

また、動画制作においてぶつかった壁はBGM問題だ。

SNSといった不特定多数の人の目につく場では、やはり著作権の問題が付きまとつ。

当初よりやま青年団だけの動画には、人気ロックバンドであるWANIMAの「やってみよう」をBGMに起用していた。

しかし、どうやらこれは著作権法に引っかかるようであった。さあ、どうしよう？

動画において、人が発する言葉のメッセージがメインであるが、そのメッセージをより引き立たせて「元気の出る動画」を作るためにはBGMはとても大きい役割を果たす。

アーティストが歌う曲をそのまま使えない状況で3つの候補が出た。

①動画編集アプリの付属BGMを使う。

②愛ラブ守山という守山市内の中学生が作詞、作曲した曲を起用する。

③もりやま青年団で歌うor演奏する。

投票の結果、圧倒的多数で自分たちで歌おうということになった。

歌った曲はAIさんの「ハピネス」

この曲から感じられる「嫌なニュースだけじゃない、笑っていよう。」というメッセージがこのコロナをみんなで乗り越える今の状況にぴったりであった。

コロナにも配慮して、録音は野外の人のいないところでみんなで歌った。

最初はただ普通に歌っていただけであったが、次第に「もっと楽しそうに歌おう」「手拍子を入れた方がいいんじゃない？」「最初と最後もっとふざけよう」といった具合にどんどん“青年団らしさ”を付け足していく。

【ハピネス モリセイver. URL】

<https://www.facebook.com/1560402410888445/posts/2582742085321134/>

【みんなで歌った時の様子】



■活動の成果、今後の展望に関すること等

この取り組みで私達が得られた成果は2点ある。

まずは動画撮影に団員だけでなく守山市に関わる地域の方々や県内の青年団員へも協力してもらったことで、もりやま青年団の団員や活動を今まで知らなかった方にも知ってもらえたことだ。団員の友人・知人へのアプローチをしたことで普段の活動のことも知ってもらえて青年団に興味を持ってもらったり、市内の企業・お店の方々へのアプローチでは、私達自身も今まで知らなかった地域のお店・企業を知ることが出来たし、相手にも地域で若者が活動しているんだと知って頂き応援してくださり、新たな地域とのつながりを持つことが出来たりという成果が得られた。

2つめは自分たちの活動の可能性を広げられたことだ。コロナウイルス感染拡大という誰もが今まで経験したことのない状況で、青年団活動も今まで通り行なうことが出来なくなってしまったが、新たな取り組みをみんなで考え、実践することが出来た。一人一人が集まれずに離れていても、協力してアイデアを持ち寄れば活動を止めずに続けることが出来るんだという自分達の自信にもなった。この取り組みに多くの方々が協力して下さったことや、励ましの言葉を掛けて頂いたことからも、地域で活動する若者が必要とされていることを実感できた。

もりやま青年団では主催事業のマンネリ化が課題となっているが、今回の取り組みは新たなものやま青年団を作る大切なものだったと思う。「もりやまの輪」を通じてつながりを深められた方々や団員の気持ちを大切にして、どんどん新しいことにチャレンジしていきたい。

■自由記述欄（各欄で記載できなかつたこと等）

この取り組みでは団内の変化もあった。普段なかなか参加してもらえていなかった団員や、普段遠慮する気持ちから声を掛けづらかったOB、OGさんとのつながりも深めることができた。あまり参加してもらえていなかった団員は、企画案を提案し取り組みの輪を自分達以外へも広げようとしているときに、積極的に動画撮影の協力を呼び掛けてくれた。普段市役所で働く彼女は、職場の課の垣根を越えて声を掛けてくれた。そのおかげもあって市役所関係の方には40人ほどご協力頂くことが出来た。積極的に声を掛けていく姿に、団のみんなも一緒に頑張ろうという気持ちになった。

OB、OGさんに関しては、「コロナ禍においても出来ることを考えて活動してくれてありがとう」という言葉を掛けてもらったり、楽しい気持ちになる動画を送ってもらったりして、困ったときは遠慮せずに声を掛けければ快く協力してもらえるんだと実感した。

以上

<全国青年団OB会奨励賞 資料>

土佐市青年団(高知県)
土佐市ドラゴン夜市

**2020年度全国地域実践「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）**

応募団体名	(ふりがな) とさしせいねんだん 土佐市青年団	応募部門	<input checked="" type="checkbox"/> 地域活動の部 <input type="checkbox"/> 教宣活動の部
活動名称	(ふりがな) とさしどらごんよいち 土佐市ドラゴン夜市		
活動実施日	2021年 8月 1日	、 2021年 8月 15日	
活動場所	土佐市ドラゴン広場		
関係者数	40名	参加者数	約1,500名（1日と15日合算）
活動概要	(200字程度) 新型コロナウイルスの影響で、土佐市では2大夏祭り「大綱まつり」「宇佐港まつり」の中止が決定しました。これを受け青年団で地域の、特に小学生の子どもたちに夏の楽しい思い出を届けたいと「夜市」を今年初めて開催しました。 市の各団体や高校生ボランティアの協力もあり、会場には多くの笑顔が溢れ、しっかりとした対策のもと盛大に開催することができました。		

活動報告

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。

※文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

※「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の5W1Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

—————<以下よりご記入ください>—————

1. 背景・経緯

土佐市は高知県高知市(県庁所在地)の西隣に位置する市で、人口は約3万人、都市部から車で約20分と比較的アクセスが良く、田園・山・川・海と自然を十二分に感じられる市です。

土佐市青年団は3年前の2018年より、県青年団会長と地元の青年(大学生)が奮起し、地域の社会教育委員さんたちの応援を経て約30年ぶりの復活をし活動しています。

今年は新型コロナウイルスの影響を受け、市の2大夏祭りといわれる「大綱まつり」「宇佐港まつり」共に中止となりました。その中で、特に部活等にも所属していない小学生世代が、夏休み中に外に遊びにいくことも普段のようには出来ず、ストレスも溜まってしまっている現状を知りました。

青年団として子どもたちに、楽しい夏の思い出を届けたい、また自分たち若者世代や土佐市を元気づけたいという想いで、夜市の開催を思いつきました。長い夏休み中で定期的に楽しんでもらいたい、また密を避けて開催したいと、開催日を2回に分けることとしました。自分たちで主催するお祭りは初めての開催で、不安な点もありました。しかし昨年の出張サンタ事業を通じて、子ども達の笑顔が何よりも地域の力になると感じたことと、喜んでもらうことが自分たち若者世代の一番のやりがいとなった経験が背中を押してくれました。

これまでの事業でつながりができた、市役所・商工会・観光協会、そして土佐市高岡町中央商店街内にある「ドラゴン広場」(お土産・飲食・会議・休憩等できる多機能型商業施設)等に提案したところ、皆さん賛同・応援してくれることとなり開催の運びとなりました。「土佐市」としても厳しい状況下の中で、対策をとった上で開催を許可してもらい、応援してもらえたことは大きかったと感じます。

2. 「土佐市ドラゴン夜市」

①概要

日時：2020年8月1日・15日(両日土曜日) 13:00～20:00

場所：ドラゴン広場

内容：出店(ヨーヨー・スーパー・ボール釣り／ストラックアウト／土佐市のクワガタ／わたがし／わなげ)

企画(クワガタレース／早寝・早起き・朝ごはん着ぐるみ写真撮影会／ミニライブ／お楽しみ抽選会)

②開催場所について

「ドラゴン広場」店長の小松くんは青年団員でもあり、店長として商店街の活性化に奮闘しています。自分たち青年団としても協力したい思いがあり、開催場所をドラゴン広場にしました。(※「ドラゴン」という言葉について、土佐市の形が竜の横顔に似ていることから市のシンボルとなっています。今回の夜市のタイトルもそこから取りました。)

③行政・関係団体の協力

今回土佐市役所未来づくり課はじめ、商工会や観光協会、社会福祉協議会など市の様々な団体の協力を得たことが大変ありがとうございました。未来づくり課の協力を経て市内の保育園・小中学校過程に全戸配布することができました(総数約6,000枚)。また、当日は警備等スタッフとして現場にかけつけてもらい、検温機の導入等も含めご協力頂き、安全安心に運営することができました。

④高校生ボランティアの募集

高知県社会福祉協議会・高知県ボランティアNPOセンターが主催する高校生対象の夏休みボランティア制度「ナツボラ」を活用して、ボランティアスタッフを募集し2日間合わせて26名の高校生が県内各地から参加してくれました。青年団として高校生とつながり、地域活動に楽しく触れてもらうことで未来の青年団や地域に関わるきっかけにしたいという思いがあり、実現できたことは大変良かったです。これは香川県連合青年会より「子どもキャンプ」に参加していた子ども達が大きくなって青年団員になったという素敵エピソードを聞いたことがきっかけでした。

⑤企画・出店における工夫

当日は密を避けるために屋外での出店・ステージ企画を行いました。飲食は「ドラゴン広場」や近隣の商店を利用してもらおうと出店せず、すみ分けをしました。また、1つの店舗に人が溜まることを避け、且つ楽しくまわってもらうために「スタンプラリー」を企画。5つ集まると抽選会の券をもう一枚もらえる仕組みにより、多くの人に楽しんでもらうことができました。

●スタッフ(青年団×高校生)の奮闘

青年団と高校生ボランティアが連携して各ブースを受け持ちはじめました。青年団としては子ども達に楽しんでもらうことはもちろん、高校生スタッフにも運営を楽しんでもらうことを目標としてリーダー団員が奮起しました。ゲームが成功したときの掛け声からはじまり、待ち時間も楽しいトークを展開しました。子ども達のリアクションは自然体で、はじめはたじたじしていたスタッフたちもだんだんと心を掴んでいき、接する時のいきいきとした表情が印象的でした。それが子どもたちにも伝わり、満面の笑顔で楽しんでくれました。

●土佐市のクワガタ・命の大切さ

今回、地元土佐市のクワガタに子どもたちに触れてもらう機会を作りたい!とブースを構えました。自分たちで、昆虫を探りに夜の森へ出向き、汗だくになりながら探しました。当日、子ども達からは「これが土佐市におるが!?」と驚きの声が続出し、スタッフの喜びもひとしおでした。楽しみながらも、命の大切さを感じてもらいたいという団員の想いが実現した瞬間でした。

●「土佐市 思い出の情景」スライドショー

中央商店街を盛り上げたいという想いを込めて、昔の中央商店街の風景写真をスライドショーにして、「ドラゴン広場」内の休憩スペースで上映しました。土佐市市民図書館や、社会教育委員の松岡 善郎さんから写真の提供協力を得て実現することができました。子ども達を連れてきた親御さんが、懐かしの写真に釘付けになる・・・そんな温かい空気が会場の一角に流れました。

●お楽しみ抽選会

抽選会オープニングはミニライブを行いました。準備期間に公園で路上ライブをしていたところ、出会った青年にも出演してもらいました。はじめは子どもたちに冷やかされながらもまったく動じず、むしろ最後には拍手喝采になる人を引き付けていた様子に胸を打たれ、声をかけました。彼は当日祭りのブースリーダーの一人としても活躍してくれ、現在も青年団活動に関わってくれています。このことを通じて、様々な青年の発表の場やきっかけを作っていくことを改めて感じました。

抽選会には密を避けながら多くの人が参加してくれ、会場は夜市の中で一番盛り上がりました。ここでは青年団、高校生スタッフが連携し、司会進行や景品受け渡しなど奮闘しました。セリフを一生懸命に練り、文章を分けて発表したり、子どもたちが混雑しないように声かけあって導線を確保する場面など、多くの場面で自然とそれぞれの主体性が發揮されていました。

⑤成果と課題・リベンジ

全体を通して、多くの協力を得て無事に成功することができました。子どもたちをはじめ親御さんにも喜んでもらえたこと、高校生スタッフたちからも「楽しかった！」中には「これまで苦手だった人前で話すことが司会をやってみて苦手意識がなくなった！やってみて良かった。」という感想あり、本当に嬉しく団員一同喜びました。また、今回2回夜市を開催できたことが自分たちにとっても学びとなりました。1回目はコロナウイルス対策でもう少し充実させたい部分、抽選会時の密をどう避けるかなど課題でたところを、2回目でリベンジすることができました。役場の検温機械の導入やステージのお立ち台を作り、ステージまわりの空間を確保することなど、短い期間でリベンジできたことがより全員のやる気・やりがいにつながりました。

また、高校生ボランティアスタッフを受け入れたことが非常に良かったです。自分たちの活動や地域に楽しく触れてもらい、これから青年団活動や地域に興味を持つ・関わるきっかけを作ることができました。また、私たち自身がどうやら皆さんに楽しく体験してもらえるか奮起することでチームワークを育むことができたと感じます。

●団員の感想

「青年団として地域の皆さんに喜んでもらえる場所を作ることができたのは、とてもやりがいが溢れていた。意義があると感じた。」「コロナ禍で大きなお祭り無くなってしまった中、青年団で夜市を成し遂げることができたのは大きな成果だと思った。楽しかった。」「高校生と一緒にスタッフをできたことが良かった。次の世代に青年団を知ってもらうきっかけにもなるし、自分たちもすごく鍛えられ、そして人手の面でも助けられた。」「子ども達の喜ぶ姿が何より嬉しかった。特に地元土佐市にいるクワガタだと知ったときの表情は、やって良かったと思った。」

●高校生ボランティアスタッフの感想

「学校や日常生活では経験できないとても貴重な体験ができた。」「普段は学校や部活などでほとんど関わることがない子ども達と関わるいい経験となった。」「青年団の人たちはみな優しく接してくれて楽しかった。またこのような機会があれば参加したい。」

3. 今後について

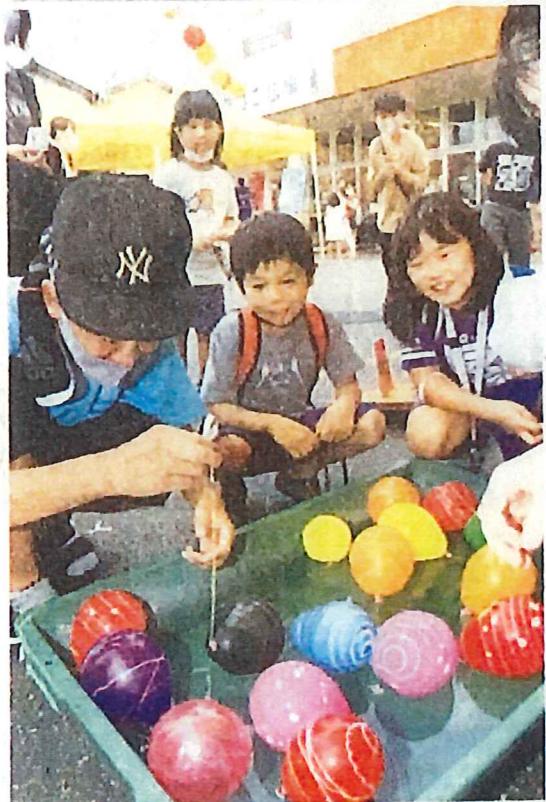
今回の夜市の開催を通じて、「あきらめない」ということは必ず次につながっていくということを自分たちで体感することができました。団員たちの汗を流して奮闘する姿、終わった後のささやかなお疲れさまの乾杯は忘れません。この経験を活かし、コロナウイルスの厳しい状況続く中ですが、自分たちにできることを一つずつ積み重ねていきたいと思います。まずは自分たちから動くことで、様々な気付きを得ながら、地元で楽しく暮らすことを模索しながら発信していきたいと思います。そしてかっこいいお兄さん・お姉さんの姿を後輩世代の皆さんにも見てもらい、自分たちが活動を通じて感じた気づきや学びなどをつないでいきたいです。

【参考資料：高知新聞記事 2020年8月6日 朝刊】

ドラゴン広場
夜市にぎわう
土佐市

【土佐】土佐市高岡町甲の集客施設「ドラゴン広場」の駐車場でこのほど、夜市が開かれ、大勢の親子連れでにぎわった。

新型コロナウィルスの影響でイベントの中止が相次ぐ中、子どもたちに夏の思い出をつくってもらおうと、土佐市青年団と同広場が1日に開催した。



大勢の親子連れでにぎわう夜市
(土佐市のドラゴン広場)

同広場で販売されて
いる市特産品の詰め合
わせなどが当たる抽選
会が開かれたほか、輪

投げやヨーヨー釣り、
クワガタとカブトムシ
販売など五つのブース
を用意。子どもたちは

「簡単にヨーヨーが釣
れてうれしかった」な
どと喜んでいた。

夜市は15日(午後3時)にも同広場で開催される予定。

(山崎友裕)

【お楽しみ抽選会の景品となった商品券の1枚】



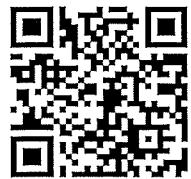
クワガタの相撲大会



ストラックアウト



お楽しみ抽選会の様子



←当日休憩スペースで上映した「思い出の情景達」動画のQRコード

実践大賞 特別賞

実践概要・審査員講評

※概要は応募されたアピールレポートから抜粋

＜田澤義鋪賞＞

もりやま青年団

みんなで一緒に「もりやまの輪」

■実践概要

コロナ禍の中で「今私たちにできること」は何か。滋賀県守山市のもりやま青年団はビデオ会議でコロナ禍の中で今後の活動について話し合った際、「一人一人のがんばろうという短いメッセージ映像を一つに繋げた動画をつくり投稿してはどうか」と団員から意見が出たのをきっかけに、動画制作を開始した。OB・OGも巻き込み「少しでも元気を届け、地域を盛り上げたい」という団員たちの想いでつくりあげた「もりやまの輪」を、6月1日にもりやま青年団Facebookに投稿した。公開されると、地域の方々や他市町の青年団など多くの仲間の「いいね！」によって瞬く間に広がり、地元の守山市有線放送では活動の模様が放送された。団長の川松有美さんは「ネット上で多くのシェアがあり『もりやまの輪』が広がっていくのが感じられ嬉しい。これからもこのつながりを大切にしたい」と語る。

ソーシャルディスタンスを守りつつ様々な人たちの協力を得ながら一つの形にした取り組みだ。

■審査員講評

守山市政50周年を迎えるパワーを動画に代えて、地域みんなとのつながりを創出した好実践です。地域の多様な人々を結び、コロナ禍であることを感じさせないほどに地域を元気にする取り組みになっています。「地域振興に優れた成果をおさめた団体」に贈られる賞としてふさわしい実践です。

動画内容は青年団員・OB・OGバージョンから始まり、地元企業、市役所、市長までを幅広く巻き込んだもので、「もりやまの輪」が確実に広がり、参加している方も見ている方もみんなが元気づけられます。BGMも手作り感があつてほほえましいですね。Facebookページの更新頻度も高く、多くの方々の関心を集めていることもわかります。

活動できない状況から一転、苦境転じて地域を結ぶ取り組みは青年団のみなさんの底力を感じさせます。それも日ごろから地域とつながりを持ち続けているからこそでしょう。地域の様々な人たちを登場させつつ、自分たちのことを発信しているので、シンプルでわかりやすいです。コロナ禍において、早い時期からの取り組みも評価されました。

＜全国青年団OB会奨励賞＞

土佐市青年団

土佐市 ドラゴン夜市

■実践概要

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、土佐市では二大夏まつりである「大綱まつり」と「宇佐港まつり」の中止が決まった。「地域のために何かできないか、特に小学生の子どもたちに夏の楽しい思い出を届けたい」という思いから「夜市」を開催する。青年団主催でまつりを企画するのは初め

だったため、不安に思う気持ちもあったが、子供の笑顔を思い出し、その笑顔が何よりも地域の力につながると信じ準備に励むことができた。

今までの活動で出会った市役所、商工会、観光協会とのご縁で協力を得ることができ、加えて商店街の多機能型商業施設にも案内を出し、十分に対策を講じたうえでの開催に賛同を得ることができた。地域全体に声をかけ、ボランティアスタッフを募集するなど、地域をまきこんだ活動へと広がり、当日は多くの子供たちでぎわった。

地元の特産品の詰め合わせなどが当たる抽選会や、輪投げやヨーヨー釣り、クワガタとカブトムシの販売など5つのブースを用意することができた。他にも、図書館や社会教育委員の支援のもと、昔の商店街の写真などを用意し、保護者の方が土佐市なつかしの情景を目にする場なども設けた。さらに、準備期間中に出会った青年とのミニライブも実施した。

今回の活動を通じ、「あきらめない」という言葉を実感させられた土佐市青年団。自分たちにできることを一つひとつ積み重ね、自分たちが活動を通じて気づいたことを、子供たちに引き継いできたいと話す。コロナ禍だからこそ気づかされた子どもたちの笑顔や、まちとのつながりの大切さを感じることができた取り組みだ。

■審査員講評

コロナ禍で、市の二大夏祭りが中止など様々な制約の中、子どもたちに楽しい夏の思い出を残したい、若者世代や地元を元気にしたいとの想いで商店街の「ドラゴン広場」を活用する夏の夜市を提案しました。実施のためには地元の協力が不可欠ですが、首尾よく市役所をはじめとする商工会、観光協会、社会福祉協議会の協力や高校生ボランティアの参加が得られました。それも土佐市青年団の結成後3年間の活動が地元から支持されている証拠だと考えます。夜市の内容も密を避ける工夫を施し、クワガタレースなど楽しい催しが盛りだくさん、中でも「土佐市 思い出の情景」スライドショーは子どもと親御さんにとっても夏の思い出になったのではないでしょうか。また、夏の暑いさなか、汗だくになりながらの団員と高校生ボランティアの準備、運営の奮闘ぶりもアピールレポートからとても伝わります。その甲斐あって2日間で1500人が参加、素晴らしい夏のイベントとなりました。イベントはもちろん青年団活動の普及やその後の反省もきちんとしている事も評価されました。全国青年団OB会奨励賞受賞おめでとうございます！